調査·計画部門

整備後も、参加者が積極的に管理・運営に関わっていけるような意欲を生む 「未来志向の公園」として計画していることが高く評価された。災害跡地での 計画としてモデルとなる特筆すべき事例である。



作品概要

- 大島町メモリアル公園

計画協力―― 株式会社公園マネジメント研究所

東京都大島町

計画期間--- 2015年6月~2017年3月

規模-----約6.7ha

所在地――― 東京都大島町元町字神達及び字木伐大道地内

株式会社東京ランドスケープ研究所

主要施設―― 慰霊碑・広場・管理棟・公園トイレ・遊戯施設・

スケートボード場 他















①全景(三原山中腹より) ②祈りの広場 ③メインエントランス ④スポーツ広場(スケートボード場) ⑤大島町メモリアル公園計画平面図 ⑥ふれあいの園 ⑦遊戯施設(三原山の尾根線をイメージ) ⑧園名(椿の花のモチーフ) ⑨遊戯施設(三原山火口をイメージ)



## 大島町メモリアル公園

東京ランドスケープ研究所

小林 新・尾崎友美・羽田泰章・鈴木憲明・栗下雅之・ 上田早織(元社員)・梅原可奈子(元社員)

公園マネジメント研究所

恵谷真・長谷川利恵子・浦崎真一

計画地は平成25年10月の台風26号により土砂災害が発 生し、死者36名行方不明者3名(平成26年7月31日時点) の甚大な被害を被った区域でした。「鎮魂・災害の伝承」と「島 の活性化|という二つの目標を"復興祈念"という骨太のテー マに基づきメモリアル公園を計画しました。

「直接的被害を受け復興に向けて思いをはせることが困難な 方々|「鎮魂や祈り等を行う場にレクリエーション施設である 公園づくりに反対されている方々」「災害により改変された土 地や施設をそのままの形で残すべきと考えている方々 | 等様々

な思いや各世代での違った意見のある中、行政と住民が公園整 備に向けたワークショップ形式の検討分科会やアンケート調査 等を行いました。検討分科会では、ファシリテーターとして、 土地の状況や法規制、景観特性、他公園の事例など、客観的な 敷地特性と合わせ一つ一つ丁寧に説明し、意見の相違や課題事 項を解決し、公園計画案として取りまとめました。

検討分科会では「鎮魂・祈りの場」「学びと伝承の場」「憩い と交流の場」「自然文化の場」の4つの空間構成とその整備内 容についての検討を行いました。

「鎮魂・祈り」「学びと伝承」の視点では、災害の遺構を保全 するのではなく、災害のあった10月にも咲く、二季咲き桜を 住宅跡地や土砂の流出方向に対し植栽した景観軸を計画するこ とで災害の記憶とし、鎮魂・祈りとなり、伝承につながる計画 にしました。防災施設である導流提や堆積工等が隣接している

ため、公園からのその防災施設へのアクセスや眺望を確保する ことで防災への学びにもつながる計画としました。

「憩いと交流」「自然文化」の視点では、大島で発見されたヤ ブツバキの選抜種などヤブツバキ系統を中心とした12品種の ツバキをはじめ大島の固有種や準固有種を導入することで大島 らしさを表現しました。特に観光客が減少する春と秋に見頃を 迎える植栽を積極的に取り入れ、大島の新たな魅力創出に貢献 し、集客につながる計画としました。

造成計画では、利用のしやすさや雨水の流出や防災面等にも 配慮し、地形の改変を極力抑えながら、ひな壇状の造成計画と し、主要施設付近に駐車場を配置することでだれでも利用しや すい公園計画としました。

動線は、管理車両も通行可能な幹線園路を設け、幹線園路を つなぐ支線園路、支線園路をつなぐ細園路及び公園のシンボル

となる特殊園路の4種類の園路構成とし、公園の利用動線や 維持管理動線等様々な用途に対応できる計画としました。

また、古く三原山への巡礼等大島の人々の生活に密着してき た旧登山道を活かすとともに、大島の歴史や自然や景観、四季 の変化が楽しめる、回遊性のある園路計画としました。

導入施設は、大島らしさを表現する素材として「ツバキ」「サ クラ」「三原山」をデザインモチーフとして取り入れた遊具や 園名板等のほか、検討分科会に毎回参加していた、「公園が完 成する頃には自分達は成人している。後輩のためにスケート ボード場を整備し、公園に来るきっかけ作り、災害を思い起こ すきっかけとしていきたい。自分たちが責任を持って管理やマ ナーの指導をしていく」と周囲の説得を行い実現したスケート ボード場など、特徴ある施設計画を行い、多くの人々に利用さ れている公園が完成しました。

11

CLA JOURNAL NO.182 CLA JOURNAL NO.182 10